学校人脈

山崎高校編 ❶

演歌歌手

「紅白出場」支えた同窓生

2017年大みそか、東京・渋谷のNHKホール。初めて紅白歌合戦の舞台に立った演歌歌手丘みどり(34)＝本名・岡美里、山高55回＝は、客席に祖母の泣き出しそうな顔と、父のこわばった姿を見つけた。「安心させないと」と気持ちを静めたが、伴奏が始まると亡き母・早苗が脳裏をよぎり、何百回と歌った歌詞が出てこなくなった。

頭が真っ白になったが、最初の一声が無意識に出て緊張が解けた。堂々と歌い切り、舞台袖に戻ると泣き崩れた。歌手デビューから13年。やっと母との約束を果たせたと思った。

紅白歌合戦出場の夢を実現した丘みどりさん＝姫路市本町

■

丘は姫路市安富町出身。5歳から地元の民謡教室に通い、山崎文化会館（宍粟市山崎町）で見た鳥羽一郎に憧れ、演歌歌手を夢見るようになった。才能は明らかで、民謡の名手で知られた故橋本淳蔵の凡聖社（姫路市広畑区）へ。そこで目標とした先輩が石田陽子(68)＝山高21回千種分校＝だった。

石田は20代から民謡や三味線を習い、後に県日本民謡祭の県名人や全国大会の上位入賞も経験した。丘が憧れていたことは「知らんかった」と笑うが、「子どもなのに長い歌を最後まで歌える声量とリズム感があり、伴奏も弾きやすかった」。

橋本の練習は厳しく、基本の発声だけで3カ月を費やすことも。力を伸ばした丘は小学5年生で県日本民謡祭に初出場し、石田を抑えて史上最年少で県名人を勝ち取った。丘は「奇跡」と言うが、「目標とする人が身近にいたから成長できた」と振り返った。

石田陽子さん＝宍粟市山崎町上比地

この優勝を機に「天才少女」の名声を手に入れ、夢に向けて民謡に磨きをかけるようになった。

■

21歳で演歌歌手としてデビュー。しかし、二人三脚で歩んできた早苗をがんで亡くす。母との最後の約束が「紅白に出る」だった。

最初の10年は「誰からも振り向かれない時期」だった。同級生や故郷の支えでトークなど歌以外の力を養った。2016年、拠点を東京に移すと、歌番組などへの出演が増えた。

山崎高校前同窓会長の本條潔(73)＝山高16回＝はこの頃から、丘の応援を始めた。同窓会報に丘が書いた原稿を載せて発信し、山崎文化会館で凱旋コンサートを企画。ポスター貼りやチケット販売に奔走する最中に飛び込んできたのが紅白決定のニュースだった。

本條は「初めて会った時から逸材だと感じた。彼女のおかげで山崎高校が有名になった」と喜ぶ。

紅白に2年連続出場し、映画やバラエティー番組にも活躍の場を広げる丘。「地元があるから今がある」と感謝し、「紅白に毎年出られるよう頑張りたい。地元でもっと歌い、私は変わっていないことを伝えたい」とさらなる飛躍を誓う。

（敬称略）

■

1907（明治40）年、山崎町立技芸専修女学校として創立した山崎高校とその分校から独立した伊和、千種高校。宍粟に根付いた3高校の卒業生の群像を描く。（古根川淳也）

◇

この連載は原則月1回、「宍粟新聞」の日に掲載します。

宍粟新聞

このページでは「ご当地新聞」と題した企画を展開します。姫路・西播地域をクローズアップし、みなさんが住む地域を題字にした新聞を掲載します。お楽しみください。

古根川淳也

10年前に龍野高校の「学校人脈」を担当しましたが、宍粟の3高校も多士済々。みなさん「母校の縁」を大切にしています。以前から温めていた連載を、宍粟新聞でお届けします。

たい焼きの魚拓は富嶋さんの本をまねてみました。丹念に墨を塗り、和紙に写し出された魚の姿を見ると、なぜか心を奪われてしまいます。天然物を探し求める気持ちが分かりました。

ちなみに魚拓の落款（らっかん）は、7年前にたつの支局を離れる際に取材先の書家が作ってくれた物。あの時はきちんとお礼が言えないままでした。この場を借りて、ありがとうございました。

次回29日は「たつの新聞」です